



管理と監視 GenAI

NetApp
October 06, 2025

目次

管理と監視	1
GenAIインフラの管理	1
インフラに関する情報を表示する	1
インフラストラクチャの削除	1
生成AIナレッジベースの管理	2
ナレッジベースに関する情報を表示する	2
ナレッジベースの編集	2
スナップショットでナレッジベースを保護	3
ナレッジベースへのデータソースの追加	5
データソースとナレッジベースを同期する	9
ナレッジベースを作成する前にチャットモデルを評価する	10
ナレッジベースの非公開	11
ナレッジベースの削除	11
Amazon Q Business Connectorの管理	12
コネクタに関する情報を表示する	12
コネクタの編集	12
コネクタへの追加データソースの追加	13
データソースをコネクタと同期する	17
コネクタの削除	18
生成AIデータソースを管理します。	19
データソースに関する情報を表示する	19
データソース設定の編集	19
既存のデータソースの内容を更新する	20
データソースを削除する	20
NetApp Workload FactoryのTrackerでワークロード操作を監視する	20
運用の追跡と監視	21
View APIヨウキユウ	21
失敗した処理を再試行する	21
失敗した処理を編集して再試行してください	22

管理と監視

GenAIインフラの管理

デプロイされたGenAI RAGインフラストラクチャの詳細を表示したり、不要になった場合はチャットボットインフラストラクチャを削除したりできます。

インフラに関する情報を表示する

チャットボットインフラストラクチャに関する情報を表示できます。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。"[コンソールエクスペリエンス](#)"。
2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。
3. *インフラストラクチャ*メニューを選択します。
4. 次のコンポーネントの詳細など、インフラに関する情報を表示します。
 - AWS設定
 - インフラ設定
 - AIエンジン
 - ベクターデータベース

インフラストラクチャの削除

1 つ以上のチャットボット用にデプロイしたチャットボット インフラストラクチャが不要になった場合は、Workload Factory から削除できます。



このインフラストラクチャに展開されているすべてのチャットボットが無効になり、すべてのチャット履歴が削除されます。

この操作では、Workload Factory から AI インフラストラクチャへのリンクのみが削除され、AWS からすべてのコンポーネントが削除されるわけではありません。次のインフラストラクチャ コンポーネントを AWS から手動で削除する必要があります。

- VMインスタンス
- プライベートエンドポイント
- AIデータベースを含むFSx for ONTAPファイルシステム上のボリューム
- IAMロール
- ポリシー
- セキュリティグループ

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。"[コンソールエクスペリエンス](#)"。

2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。
3. *インフラストラクチャ*メニューを選択します。
4. を選択し ... 、*チャットボットインフラストラクチャの削除*を選択します。
5. インフラを削除することを確認し、*[削除]*を選択します。

結果

チャットボット インフラストラクチャ コンポーネントが Workload Factory から削除されます。

生成AIナレッジベースの管理

ナレッジベースを作成したら、ナレッジベースの詳細の表示、ナレッジベースの変更、追加のデータソースの統合、ナレッジベースの削除を行うことができます。

ナレッジベースに関する情報を表示する

ナレッジベースと統合されているデータソースの設定に関する情報を表示できます。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。"コンソールエクスペリエンス"。
2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。
3. 表示するナレッジベースを選択します。

定義されている場合は、現在使用されているカンバセーションスタータが右側のペインに表示されます。

4. ナレッジベースの詳細を表示するには、を選択し ... で* [ナレッジベースの管理] *を選択します。

このページには、パブリッシュされたステータス、データソースの埋め込みステータス、埋め込みモード、すべての埋め込みデータソースのリストなどが表示されます。

[アクション]メニューを使用すると、変更を加える場合にナレッジベースを管理できます。

ナレッジベースの編集

一部の設定を変更してナレッジベースを更新したり、データソースを追加または削除したりできます。

ナレッジベースにデータソースを追加、変更、または削除するたびに、データソースを同期してナレッジベースに再インデックス化する必要があります。同期は差分で行われるため、Amazon Bedrockは前回の同期後に追加、変更、または削除されたFSx for ONTAPボリューム内のオブジェクトのみを処理します。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。"コンソールエクスペリエンス"。
2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。
3. ナレッジベースインベントリページで、更新するナレッジベースを選択します。
4. を選択し ... 、*[ナレッジベースの管理]*を選択します。

このページには、パブリッシュされたステータス、データソースの埋め込みステータス、埋め込みモード、すべての埋め込みデータソースのリストなどが表示されます。

5. メニューを選択し、[ナレッジベースの編集]*を選択します。
6. [ナレッジベースの編集] ページでは、ナレッジベースの名前、説明、埋め込みモデル、チャットモデル、機能の有効化を変更したり、会話の開始点を自動で作成するか手動で作成するかを選択したり、ナレッジベースを含むボリュームに使用するスナップショットポリシーを選択したりできます。

会話の開始に手動モードを使用している場合は、ここでも会話の開始を変更できます。



埋め込み、コストを含むすべてのナレッジベーススキャン。ナレッジベースの作成後にデータガードレールを有効にすると、ナレッジベースは再度スキャンされ、コストがかかります。同様に、チャットモデルを変更すると、生成AIは関連するデータソースを再スキャンします(コストが発生します)。

7. 変更が完了したら、*[保存]*を選択します。

スナップショットでナレッジベースを保護

ナレッジベースボリュームのスナップショットを作成および復元することで、ナレッジベースデータを保護できます。スナップショットから復元して、ナレッジベースの以前のバージョンにいつでも戻すことができます。

スナップショットは、バックアップよりも高速でストレージ効率に優れており、異なる保護ポリシーを使用して各ナレッジベースを保護できます。スナップショットが役立つシナリオには、次のようなものがあります。

- 偶発的なデータ損失や破損
- ナレッジベースに取り込まれた不正なデータからのリカバリ
- さまざまなデータソースまたはチャンク戦略をテストし、テストが完了したら迅速にリポートする

ナレッジベースボリュームのスナップショットの作成

ナレッジベースボリュームのスナップショットを手動で作成することで、ナレッジベースの状態を保存できます。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。"コンソールエクスペリエンス"。
2. [AI Workloads] タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。
3. ナレッジベースインベントリページで、保護するナレッジベースを選択します。
4. を選択し ...、*[ナレッジベースの管理]*を選択します。

このページには、パブリッシュされたステータス、データソースの埋め込みステータス、埋め込みモード、すべての埋め込みデータソースのリストなどが表示されます。

5. メニューを選択し、[Snapshot]>[Create new snapshot]*を選択します。
6. 必要に応じて、*[Define snapshot name]*を選択し、Snapshotのカスタム名を入力します。

カスタム名を定義すると、将来スナップショットをリストアする必要がある場合に、スナップショットの

内容をより正確に判断するのに役立ちます。

7. 「* Create *」を選択します。

ナレッジベースのスナップショットが作成されます。

ナレッジベースボリュームのスナップショットのリストア

ナレッジベースボリュームの手動またはスケジュールされたスナップショットは、いつでもリストアできます。



ボリュームに格納されているデータベースが破損しているか削除されている場合は、Generative AI Workloads UIを使用してSnapshotをリストアすることはできません。対処方法として、ボリュームがホストされているONTAPクラスタでを使用してSnapshotをリストアし"ONTAP CLI"ます。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。"コンソールエクスペリエンス"。
2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。
3. ナレッジベースインベントリページで、復元するナレッジベースを選択します。
4. を選択し ... 、*[ナレッジベースの管理]*を選択します。

このページには、パブリッシュされたステータス、データソースの埋め込みステータス、埋め込みモード、すべての埋め込みデータソースのリストなどが表示されます。

5. メニューを選択し、[スナップショット]>[スナップショットのリストア]*を選択します。

スナップショット選択ダイアログが表示され、このナレッジベース用に作成されたスナップショットのリストが表示されます。

6. (オプション) Snapshotのリストア後にスケジュール済みおよび現在実行中のデータソーススキャンを続行する場合は、*[Pause running and scheduled scans after restoring the snapshot]*オプションの選択を解除します。

このオプションはデフォルトで有効になっており、ナレッジベースが部分的に復元された状態のときにスキャンが実行されないようにしたり、新しく復元されたナレッジベースが古いデータで更新されないようにします。

7. リストアするSnapshotをリストから選択します。
8. [* Restore] を選択します。

ナレッジベースの複製

ナレッジベーススナップショットから新しいナレッジベースを作成できます。これは、元のナレッジベースが破損したり失われたりした場合に便利です。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。"コンソールエクスペリエンス"。
2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。

3. ナレッジベースインベントリページで、復元するナレッジベースを選択します。

4. を選択し 、*[ナレッジベースの管理]*を選択します。

このページには、パブリッシュされたステータス、データソースの埋め込みステータス、埋め込みモード、すべての埋め込みデータソースのリストなどが表示されます。

5. メニューを選択し、[スナップショット]>[ナレッジベースのクローニング]*を選択します。

クローンダイアログが表示されます。

6. 必要に応じて、Snapshotのクローニング後にスケジュール済みおよび現在実行中のデータソーススキャンを続行する場合は、*[Pause running and scheduled scans after cloning the snapshot]*オプションの選択を解除します。

このオプションはデフォルトで有効になっており、ナレッジベースが部分的に復元された状態のときにスキャンが実行されないようにしたり、新しく復元されたナレッジベースが古いデータで更新されないようにします。

7. クローニングするSnapshotをリストから選択します。

8. 「* Continue *」を選択します。

9. 新しいナレッジベースの名前を入力します。

10. 新しいナレッジベースのファイルシステムSVMとボリューム名を選択します。

11. 「* Clone *」を選択します。

ナレッジベースへのデータソースの追加

追加のデータソースをナレッジベースに埋め込んで、追加の組織データをナレッジベースに取り込むことができます。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。["コンソールエクスペリエンス"](#)。

2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。

3. [ナレッジベース]インベントリページで、データソースを追加するナレッジベースを選択します。

4. を選択し 、*[Add data source]*を選択します。

5. 追加するデータソースの種類を選択します。

- FSx for ONTAP ファイルシステムを追加する (既存の FSx for ONTAP ボリュームのファイルを使用)
- ファイルシステムを追加する (一般的な SMB または NFS 共有のファイルを使用)

FSx for ONTAP ファイルシステムを追加する

1. ファイルシステムを選択：データソースファイルが存在するFSx for ONTAPファイルシステムを選択し、* Next *を選択します。
2. ボリュームを選択：データソースファイルが格納されているボリュームを選択し、*[次へ]*を選択します。

SMBプロトコルを使用して保存されているファイルを選択する場合は、ドメイン、IPアドレス、ユーザー名、パスワードなどのActive Directory情報を入力する必要があります。

3. データソースを選択：ファイルを保存した場所に基づいてデータソースの場所を選択します。これは、ボリューム全体、またはボリューム内の特定のフォルダまたはサブフォルダにすることができ、* Next *を選択します。
4. 設定:データソースがファイルから情報を取り込む方法と、スキャンに含めるファイルを設定します。

- データソースの定義：*チャンク戦略*セクションで、データソースがナレッジベースと統合されている場合に、生成AIエンジンがデータソースのコンテンツをチャンクに分割する方法を定義します。次のいずれかの方法を選択できます。

- **Multi-sentence chunking:** データソースの情報をセンテンス定義のチャンクに編成します。各チャンクを構成する文の数を選択できます(最大100)。
- **オーバーラップベースのチャンク:** データソースからの情報を文字定義のチャンクに編成し、隣接するチャンクとオーバーラップすることができます。各チャンクのサイズを文字単位で選択し、各チャンクが隣接するチャンクとどの程度重なるかを選択できます。チャンクサイズは50~3000文字、オーバーラップパーセンテージは1~99%の範囲で設定できます。



オーバーラップ率を高く設定すると、取得精度がわずかに向上するだけで、ストレージ要件が大幅に増加します。

- ファイルフィルタリング:スキャンに含めるファイルを設定します。

- [ファイルタイプのサポート]セクションで、すべてのタイプのファイルを含めるか、データソーススキャンに含めるファイルタイプを個別に選択します。

画像または PDF ファイルを含めると、NetApp Workload Factory for GenAI は画像内のテキスト (PDF ドキュメント内の画像を含む) を解析するため、コストが高くなります。

画像のテキストデータを含めると、スキャンされたテキストデータが環境からAWSに送信されるため、生成AIは画像の個人識別情報(PII)をマスクできません。ただし、データが保存されると、すべてのPIIは生成AIデータベースでマスクされます。



画像ファイルをスキャンに含めるかどうかは、ナレッジベースチャットモデルに関連しています。画像ファイルをスキャンに含める場合は、チャットモデルで画像がサポートされている必要があります。ここで画像ファイルタイプが選択されている場合、画像ファイルをサポートしていないチャットモデルにナレッジベースを切り替えることはできません。

- [ファイル変更時刻フィルタ]*セクションで、ファイルの変更時刻に基づいてファイルを含めるかどうかを選択します。変更時刻のフィルタリングを有効にする場合は、リストから日付範囲を選択します。



変更日の範囲に基づいてファイルをインクルードした場合、日付範囲が満たされない（指定した日付範囲内でファイルが変更されていない）とすぐに、ファイルは定期スキャンから除外され、データソースにはこれらのファイルは含まれません。

5. 権限対応*セクション（選択したデータソースがSMBプロトコルを使用するボリューム上にある場合にのみ表示）で、権限対応の応答を有効または無効にできます。
 - 有効: このナレッジベースにアクセスするチャットボットのユーザーは、アクセス権を持つデータソースからのクエリに対する応答のみを取得します。
 - 無効: チャットボットのユーザーは、統合されたすべてのデータソースからコンテンツを使用して応答を受信します。
6. [追加]*を選択して、このデータソースをナレッジベースに追加します。

汎用NFSファイルシステムを追加する

1. ファイル システムを選択: データ ソース ファイルが存在するファイル システム ホストの IP アドレスまたは FQDN を入力し、ネットワーク共有の NFS プロトコルを選択して、次へ を選択します。
2. データソースを選択: ファイルを保存した場所に基づいてデータソースの場所を選択します。これは、ボリューム全体、またはボリューム内の特定のフォルダまたはサブフォルダにすることができ、* Next *を選択します。



場合によっては、NFSエクスポート名を手動で入力し、「ディレクトリを取得」を選択して利用可能なディレクトリを表示する必要があります。エクスポート全体を選択するか、エクスポートから特定のフォルダのみを選択するかを選択できます。

3. 設定: データソースがファイルから情報を取り込む方法と、スキャンに含めるファイルを設定します。
 - データソースの定義: *チャンク戦略*セクションで、データソースがナレッジベースと統合されている場合に、生成AIエンジンがデータソースのコンテンツをチャンクに分割する方法を定義します。次のいずれかの方法を選択できます。
 - **Multi-sentence chunking:** データソースの情報をセンテンス定義のチャンクに編成します。各チャンクを構成する文の数を選択できます(最大100)。
 - **オーバーラップベースのチャンク:** データソースからの情報を文字定義のチャンクに編成し、隣接するチャンクとオーバーラップすることができます。各チャンクのサイズを文字単位で選択し、各チャンクが隣接するチャンクとどの程度重なるかを選択できます。チャンクサイズは50~3000文字、オーバーラップパーセンテージは1~99%の範囲で設定できます。



オーバーラップ率を高く設定すると、取得精度がわずかに向上するだけで、ストレージ要件が大幅に増加します。

- ファイルフィルタリング: スキャンに含めるファイルを設定します。
 - [ファイルタイプのサポート]セクションで、すべてのタイプのファイルを含めるか、データソーススキャンに含めるファイルタイプを個別に選択します。

画像または PDF ファイルを含めると、NetApp Workload Factory for GenAI は画像内のテキスト (PDF ドキュメント内の画像を含む) を解析するため、コストが高くなります。

画像のテキストデータを含めると、スキャンされたテキストデータが環境からAWSに送信されるため、生成AIは画像の個人識別情報(PII)をマスクできません。ただし、データが保存されると、すべてのPIIは生成AIデータベースでマスクされます。



画像ファイルをスキャンに含めるかどうかは、ナレッジベースチャットモデルに関連しています。画像ファイルをスキャンに含める場合は、チャットモデルで画像がサポートされている必要があります。ここで画像ファイルタイプが選択されている場合、画像ファイルをサポートしていないチャットモデルにナレッジベースを切り替えることはできません。

- 。[ファイル変更時刻フィルタ]*セクションで、ファイルの変更時刻に基づいてファイルを含めるかどうかを選択します。変更時刻のフィルタリングを有効にする場合は、リストから日付範囲を選択します。



変更日の範囲に基づいてファイルをインクルードした場合、日付範囲が満たされない（指定した日付範囲内でファイルが変更されていない）とすぐに、ファイルは定期スキャンから除外され、データソースにはこれらのファイルは含まれません。

4. このデータソースをナレッジベースに追加するには、[データソースの追加]を選択します。

汎用SMBファイルシステムを追加する

1. ファイルシステムを選択:

- a. データソースファイルが存在するファイルシステムホストのIPアドレスまたはFQDNを入力します。
- b. ネットワーク共有のSMBプロトコルを選択します。
- c. ドメイン、IPアドレス、ユーザー名、パスワードを含むActive Directory情報を入力します。
- d. 「*次へ*」を選択します。

2. データソースを選択: ファイルを保存した場所に基づいてデータソースの場所を選択します。これは、ボリューム全体、またはボリューム内の特定のフォルダまたはサブフォルダにすることができ、*Next*を選択します。



場合によっては、SMB共有名を手動で入力し、「ディレクトリの取得」を選択して利用可能なディレクトリを表示する必要があります。共有全体を選択するか、共有内の特定のフォルダのみを選択するかを選択できます。

3. 設定: データソースがファイルから情報を取り込む方法と、スキャンに含めるファイルを設定します。

- 。データソースの定義: *チャンク戦略*セクションで、データソースがナレッジベースと統合されている場合に、生成AIエンジンがデータソースのコンテンツをチャンクに分割する方法を定義します。次のいずれかの方法を選択できます。

- **Multi-sentence chunking:** データソースの情報をセンテンス定義のチャンクに編成します。各チャンクを構成する文の数を選択できます(最大100)。
- **オーバーラップベースのチャンク:** データソースからの情報を文字定義のチャンクに編成し、隣接するチャンクとオーバーラップすることができます。各チャンクのサイズを文字単位で選択し、各チャンクが隣接するチャンクとどの程度重なるかを選択できます。チャンクサイズは50~3000文字、オーバーラップパーセンテージは1~99%の範囲で設定できます。



オーバーラップ率を高く設定すると、取得精度がわずかに向上するだけで、ストレージ要件が大幅に増加します。

- 権限認識: 権限認識応答を有効または無効にします。
 - 有効: このナレッジベースにアクセスするチャットボットのユーザーは、アクセス権を持つデータソースからのクエリに対する応答のみを取得します。
 - 無効: チャットボットのユーザーは、統合されたすべてのデータソースからコンテンツを使用して応答を受信します。
- ファイルフィルタリング: スキャンに含めるファイルを設定します。
 - [ファイルタイプのサポート]セクションで、すべてのタイプのファイルを含めるか、データソーススキャンに含めるファイルタイプを個別に選択します。

画像または PDF ファイルを含めると、NetApp Workload Factory for GenAI は画像内のテキスト (PDF ドキュメント内の画像を含む) を解析するため、コストが高くなります。

画像のテキストデータを含めると、スキャンされたテキストデータが環境からAWSに送信されるため、生成AIは画像の個人識別情報(PII)をマスクできません。ただし、データが保存されると、すべてのPIIは生成AIデータベースでマスクされます。



画像ファイルをスキャンに含めるかどうかは、ナレッジベースチャットモデルに関連しています。画像ファイルをスキャンに含める場合は、チャットモデルで画像がサポートされている必要があります。ここで画像ファイルタイプが選択されている場合、画像ファイルをサポートしていないチャットモデルにナレッジベースを切り替えることはできません。

- [ファイル変更時刻フィルタ]*セクションで、ファイルの変更時刻に基づいてファイルを含めるかどうかを選択します。変更時刻のフィルタリングを有効にする場合は、リストから日付範囲を選択します。



変更日の範囲に基づいてファイルをインクルードした場合、日付範囲が満たされない (指定した日付範囲内でファイルが変更されていない) とすぐに、ファイルは定期スキャンから除外され、データソースにはこれらのファイルは含まれません。

4. このデータ ソースをナレッジ ベースに追加するには、[データ ソースの追加] を選択します。

結果


データソースはナレッジベースに統合されます。

データソースとナレッジベースを同期する

データソースは関連付けられたナレッジベースと1日に1回自動的に同期されるため、データソースの変更がチャットボットに反映されます。いずれかのデータソースに変更を加え、データをすぐに同期する場合は、オンデマンド同期を実行できます。

同期は増分処理であるため、Amazon Bedrockは前回の同期以降に追加、変更、または削除されたデータソース内のオブジェクトのみを処理します。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。["コンソールエクスペリエンス"](#)。
2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。
3. ナレッジベースインベントリページで、同期するナレッジベースを選択します。
4. を選択し 、*[ナレッジベースの管理]*を選択します。
5. メニューを選択し、[今すぐスキャン]*を選択します。

データソースがスキャンされていることを示すメッセージが表示され、スキャンが完了すると最終的なメッセージが表示されます。


結果

ナレッジベースは添付されたデータソースと同期され、アクティブなチャットボットはデータソースからの最新情報を使用し始めます。

スケジュールされた同期を一時停止または再開する

データソースの次の同期（スキャン）を一時停止または再開する場合は、いつでも実行できます。データソースに変更を加え、変更ウィンドウ中に同期を行わないようにする場合は、次のスケジュールされた同期を一時停止しなければならないことがあります。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。["コンソールエクスペリエンス"](#)。
2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。
3. 「ナレッジベースとコネクタ」メニューから、スキャンを一時停止または再開するナレッジベースを選択します。
4. を選択し 、*[ナレッジベースの管理]*を選択します。
5. [Actions]メニューを選択し、[Scan]>[Pause scheduled scan]*または[Scan]>[Resume scheduled scan]*を選択します。

次のスケジュールされたスキャンが一時停止または再開されたことを示すメッセージが表示されます。

ナレッジベースを作成する前にチャットモデルを評価する

ナレッジベースを作成する前に、利用可能な基本チャットモデルを評価して、実装に最適なモデルを確認できます。サポートされるモデルはAWSのリージョンによって異なるため、ナレッジベースを導入するリージョンで利用できるモデルを確認するには、を参照し ["AWSのドキュメントページ"](#) てください。



この機能は、ナレッジベースが作成されていない場合（ナレッジベースインベントリページにナレッジベースが存在しない場合）にのみ使用できます。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。["コンソールエクスペリエンス"](#)。
2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。
3. ナレッジベースのインベントリページから、チャットボットのページの右側にチャットモデルを選択する

オプションが表示されます。

4. リストからチャットモデルを選択し、プロンプト領域に質問のセットを入力して、チャットボットがどのように応答するかを確認します。
5. 複数のモデルを試して、実装に最適なモデルを確認してください。

結果


ナレッジベースを作成するときは、そのチャットモデルを使用します。

ナレッジベースの非公開

ナレッジベースを公開してチャットボットアプリケーションと統合できるようにした後、チャットボットアプリケーションからナレッジベースへのアクセスを無効にする場合は、ナレッジベースを非公開にすることができます。

ナレッジベースを非公開にすると、チャットアプリケーションの動作が停止します。ナレッジベースにアクセスできた一意のAPIエンドポイントが無効になります。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。"[コンソールエクスペリエンス](#)"。
2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。
3. [ナレッジベース]インベントリページで、非公開にするナレッジベースを選択します。
4. を選択し 、*[ナレッジベースの管理]*を選択します。

このページには、パブリッシュされたステータス、データソースの埋め込みステータス、埋め込みモード、およびすべての埋め込みデータソースのリストが表示されます。

5. [アクション (Actions)]メニューを選択し、*[パブリッシュ解除 (Unpublish)]*を選択

結果


ナレッジベースが無効になり、チャットボットアプリケーションからアクセスできなくなります。

ナレッジベースの削除

ナレッジベースが不要になった場合は、削除できます。ナレッジベースを削除すると、そのナレッジベースはWorkload Factoryから削除され、そのナレッジベースを含むボリュームも削除されます。ナレッジベースを使用しているアプリケーションやチャットボットはすべて動作を停止します。ナレッジベースの削除は元に戻せません。

ナレッジベースを削除する場合は、ナレッジベースに関連付けられているすべてのリソースを完全に削除するために、ナレッジベースと関連付けられているエージェントの関連付けも解除する必要があります。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。"[コンソールエクスペリエンス](#)"。
2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。
3. ナレッジベースインベントリページで、削除するナレッジベースを選択します。
4. を選択し 、*[ナレッジベースの管理]*を選択します。

5. [アクション]メニューを選択し、*[ナレッジベースの削除]*を選択します。
6. [ナレッジベースの削除]ダイアログで、削除することを確認し、*[削除]*を選択します。

結果

ナレッジ ベースは Workload Factory から削除され、それに関連付けられたボリュームも削除されます。

Amazon Q Business Connectorの管理

Amazon Q Business用のコネクタを作成したら、コネクタの詳細の表示、コネクタの変更、追加データソースの統合、コネクタの削除を行うことができます。

コネクタに関する情報を表示する

コネクタと統合されているデータソースの設定に関する情報を表示できます。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。"[コンソールエクスペリエンス](#)"。
2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。
3. ナレッジ ベースとコネクタ インベントリ ページから、表示するコネクタを選択します。
4. コネクタの詳細を表示するには、を選択し...で*[コネクタの管理]*を選択します。

このページには、パブリッシュされたステータス、データソースの埋め込みステータス、埋め込みモード、すべての埋め込みデータソースのリストなどが表示されます。

[アクション (Actions)]*メニューを使用すると、変更を加える場合にコネクタを管理できます。

コネクタの編集

一部の設定を変更してコネクタを更新したり、データソースを追加または削除したりできます。

コネクタからデータソースを追加、変更、または削除するたびに、生成AIはデータソース情報をAmazon Q Businessに送信してインデックスを再作成する必要があります。同期は増分処理であるため、Amazon Q Businessは前回の同期後に追加、変更、または削除されたFSx for ONTAPボリューム内のオブジェクトのみを処理します。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。"[コンソールエクスペリエンス](#)"。
2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。
3. [ナレッジベースとコネクタ]インベントリページで、更新するコネクタを選択します。
4. を選択し...、*[コネクタの管理]*を選択します。

このページには、パブリッシュされたステータス、データソースの埋め込みステータス、埋め込みモード、すべての埋め込みデータソースのリストなどが表示されます。

5. [アクション]メニューを選択し、*[コネクタの編集]*を選択します。

6. [Edit Connector]ページでは、コネクタの名前、説明、埋め込みモデル、データガードレールの有効化、およびコネクタを含むボリュームで使用されるSnapshotポリシーを変更できます。




埋め込みを含むすべてのデータソーススキャンにはコストがかかります。コネクタの作成後にデータガードレールを有効にすると、データソースが再度スキャンされ、コストが発生します。

7. 変更を行ったら、*[保存]*を選択します。

コネクタへの追加データソースの追加

追加データソースをコネクタに埋め込んで、追加の組織データをコネクタに取り込むことができます。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。["コンソールエクスペリエンス"](#)。
2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。
3. [ナレッジベースとコネクタ]インベントリページで、データソースを追加するコネクタを選択します。
4. を選択  し、*[Add data source]*を選択します。
5. 追加するデータ ソースの種類を選択します。
 - FSx for ONTAP ファイルシステムを追加する (既存の FSx for ONTAP ボリュームのファイルを使用)
 - ファイルシステムを追加する (一般的な SMB または NFS 共有のファイルを使用)

FSx for ONTAP ファイルシステムを追加する

1. ファイルシステムを選択：データソースファイルが存在するFSx for ONTAPファイルシステムを選択し、* Next *を選択します。
2. ボリュームを選択：データソースファイルが格納されているボリュームを選択し、*[次へ]*を選択します。

SMBプロトコルを使用して保存されているファイルを選択する場合は、ドメイン、IPアドレス、ユーザー名、パスワードなどのActive Directory情報を入力する必要があります。

3. データソースを選択：ファイルを保存した場所に基づいてデータソースの場所を選択します。これは、ボリューム全体、またはボリューム内の特定のフォルダまたはサブフォルダにすることができ、* Next *を選択します。
4. 設定:データソースがファイルから情報を取り込む方法と、スキャンに含めるファイルを設定します。

- データソースの定義：*チャンク戦略*セクションで、データソースがナレッジベースと統合されている場合に、生成AIエンジンがデータソースのコンテンツをチャンクに分割する方法を定義します。次のいずれかの方法を選択できます。

- **Multi-sentence chunking:** データソースの情報をセンテンス定義のチャンクに編成します。各チャンクを構成する文の数を選択できます(最大100)。
- **オーバーラップベースのチャンク:** データソースからの情報を文字定義のチャンクに編成し、隣接するチャンクとオーバーラップすることができます。各チャンクのサイズを文字単位で選択し、各チャンクが隣接するチャンクとどの程度重なるかを選択できます。チャンクサイズは50~3000文字、オーバーラップパーセンテージは1~99%の範囲で設定できます。



オーバーラップ率を高く設定すると、取得精度がわずかに向上するだけで、ストレージ要件が大幅に増加します。

- ファイルフィルタリング:スキャンに含めるファイルを設定します。
 - [ファイルタイプのサポート]セクションで、すべてのタイプのファイルを含めるか、データソーススキャンに含めるファイルタイプを個別に選択します。

画像または PDF ファイルを含めると、NetApp Workload Factory for GenAI は画像内のテキスト (PDF ドキュメント内の画像を含む) を解析するため、コストが高くなります。

画像のテキストデータを含めると、スキャンされたテキストデータが環境からAWSに送信されるため、生成AIは画像の個人識別情報(PII)をマスクできません。ただし、データが保存されると、すべてのPIIは生成AIデータベースでマスクされます。



画像ファイルをスキャンに含めるかどうかは、ナレッジベースチャットモデルに関連しています。画像ファイルをスキャンに含める場合は、チャットモデルで画像がサポートされている必要があります。ここで画像ファイルタイプが選択されている場合、画像ファイルをサポートしていないチャットモデルにナレッジベースを切り替えることはできません。

- [ファイル変更時刻フィルタ]*セクションで、ファイルの変更時刻に基づいてファイルを含めるかどうかを選択します。変更時刻のフィルタリングを有効にする場合は、リストから日付範囲を選択します。



変更日の範囲に基づいてファイルをインクルードした場合、日付範囲が満たされない（指定した日付範囲内でファイルが変更されていない）とすぐに、ファイルは定期スキャンから除外され、データソースにはこれらのファイルは含まれません。

5. 権限対応*セクション（選択したデータソースがSMBプロトコルを使用するボリューム上にある場合にのみ表示）で、権限対応の応答を有効または無効にできます。
 - 有効: このナレッジベースにアクセスするチャットボットのユーザーは、アクセス権を持つデータソースからのクエリに対する応答のみを取得します。
 - 無効: チャットボットのユーザーは、統合されたすべてのデータソースからコンテンツを使用して応答を受信します。
6. [追加]*を選択して、このデータソースをナレッジベースに追加します。

汎用NFSファイルシステムを追加する

1. ファイル システムを選択: データ ソース ファイルが存在するファイル システム ホストの IP アドレスまたは FQDN を入力し、ネットワーク共有の NFS プロトコルを選択して、次へ を選択します。
2. データソースを選択: ファイルを保存した場所に基づいてデータソースの場所を選択します。これは、ボリューム全体、またはボリューム内の特定のフォルダまたはサブフォルダにすることができ、* Next *を選択します。



場合によっては、NFSエクスポート名を手動で入力し、「ディレクトリを取得」を選択して利用可能なディレクトリを表示する必要があります。エクスポート全体を選択するか、エクスポートから特定のフォルダのみを選択するかを選択できます。

3. 設定: データソースがファイルから情報を取り込む方法と、スキャンに含めるファイルを設定します。
 - データソースの定義: *チャンク戦略*セクションで、データソースがナレッジベースと統合されている場合に、生成AIエンジンがデータソースのコンテンツをチャンクに分割する方法を定義します。次のいずれかの方法を選択できます。
 - **Multi-sentence chunking:** データソースの情報をセンテンス定義のチャンクに編成します。各チャンクを構成する文の数を選択できます(最大100)。
 - **オーバーラップベースのチャンク:** データソースからの情報を文字定義のチャンクに編成し、隣接するチャンクとオーバーラップすることができます。各チャンクのサイズを文字単位で選択し、各チャンクが隣接するチャンクとどの程度重なるかを選択できます。チャンクサイズは50~3000文字、オーバーラップパーセンテージは1~99%の範囲で設定できます。



オーバーラップ率を高く設定すると、取得精度がわずかに向上するだけで、ストレージ要件が大幅に増加します。

- ファイルフィルタリング: スキャンに含めるファイルを設定します。
 - [ファイルタイプのサポート]セクションで、すべてのタイプのファイルを含めるか、データソーススキャンに含めるファイルタイプを個別に選択します。

画像または PDF ファイルを含めると、NetApp Workload Factory for GenAI は画像内のテキスト (PDF ドキュメント内の画像を含む) を解析するため、コストが高くなります。

画像のテキストデータを含めると、スキャンされたテキストデータが環境からAWSに送信されるため、生成AIは画像の個人識別情報(PII)をマスクできません。ただし、データが保存されると、すべてのPIIは生成AIデータベースでマスクされます。



画像ファイルをスキャンに含めるかどうかは、ナレッジベースチャットモデルに関連しています。画像ファイルをスキャンに含める場合は、チャットモデルで画像がサポートされている必要があります。ここで画像ファイルタイプが選択されている場合、画像ファイルをサポートしていないチャットモデルにナレッジベースを切り替えることはできません。

- 。[ファイル変更時刻フィルタ]*セクションで、ファイルの変更時刻に基づいてファイルを含めるかどうかを選択します。変更時刻のフィルタリングを有効にする場合は、リストから日付範囲を選択します。



変更日の範囲に基づいてファイルをインクルードした場合、日付範囲が満たされない（指定した日付範囲内でファイルが変更されていない）とすぐに、ファイルは定期スキャンから除外され、データソースにはこれらのファイルは含まれません。

4. このデータソースをナレッジベースに追加するには、[データソースの追加]を選択します。

汎用SMBファイルシステムを追加する

1. ファイルシステムを選択:

- a. データソースファイルが存在するファイルシステムホストのIPアドレスまたはFQDNを入力します。
- b. ネットワーク共有のSMBプロトコルを選択します。
- c. ドメイン、IPアドレス、ユーザー名、パスワードを含むActive Directory情報を入力します。
- d. 「*次へ*」を選択します。

2. データソースを選択: ファイルを保存した場所に基づいてデータソースの場所を選択します。これは、ボリューム全体、またはボリューム内の特定のフォルダまたはサブフォルダにすることができ、*Next*を選択します。



場合によっては、SMB共有名を手動で入力し、「ディレクトリの取得」を選択して利用可能なディレクトリを表示する必要があります。共有全体を選択するか、共有内の特定のフォルダのみを選択するかを選択できます。

3. 設定: データソースがファイルから情報を取り込む方法と、スキャンに含めるファイルを設定します。

- 。データソースの定義: *チャンク戦略*セクションで、データソースがナレッジベースと統合されている場合に、生成AIエンジンがデータソースのコンテンツをチャンクに分割する方法を定義します。次のいずれかの方法を選択できます。

- **Multi-sentence chunking:** データソースの情報をセンテンス定義のチャンクに編成します。各チャンクを構成する文の数を選択できます(最大100)。
- **オーバーラップベースのチャンク:** データソースからの情報を文字定義のチャンクに編成し、隣接するチャンクとオーバーラップすることができます。各チャンクのサイズを文字単位で選択し、各チャンクが隣接するチャンクとどの程度重なるかを選択できます。チャンクサイズは50~3000文字、オーバーラップパーセンテージは1~99%の範囲で設定できます。



オーバーラップ率を高く設定すると、取得精度がわずかに向上するだけで、ストレージ要件が大幅に増加します。

- 権限認識: 権限認識応答を有効または無効にします。
 - 有効: このナレッジベースにアクセスするチャットボットのユーザーは、アクセス権を持つデータソースからのクエリに対する応答のみを取得します。
 - 無効: チャットボットのユーザーは、統合されたすべてのデータソースからコンテンツを使用して応答を受信します。
- ファイルフィルタリング: スキャンに含めるファイルを設定します。
 - [ファイルタイプのサポート]セクションで、すべてのタイプのファイルを含めるか、データソーススキャンに含めるファイルタイプを個別に選択します。

画像または PDF ファイルを含めると、NetApp Workload Factory for GenAI は画像内のテキスト (PDF ドキュメント内の画像を含む) を解析するため、コストが高くなります。

画像のテキストデータを含めると、スキャンされたテキストデータが環境からAWSに送信されるため、生成AIは画像の個人識別情報(PII)をマスクできません。ただし、データが保存されると、すべてのPIIは生成AIデータベースでマスクされます。



画像ファイルをスキャンに含めるかどうかは、ナレッジベースチャットモデルに関連しています。画像ファイルをスキャンに含める場合は、チャットモデルで画像がサポートされている必要があります。ここで画像ファイルタイプが選択されている場合、画像ファイルをサポートしていないチャットモデルにナレッジベースを切り替えることはできません。

- [ファイル変更時刻フィルタ]*セクションで、ファイルの変更時刻に基づいてファイルを含めるかどうかを選択します。変更時刻のフィルタリングを有効にする場合は、リストから日付範囲を選択します。



変更日の範囲に基づいてファイルをインクルードした場合、日付範囲が満たされない (指定した日付範囲内でファイルが変更されていない) とすぐに、ファイルは定期スキャンから除外され、データソースにはこれらのファイルは含まれません。

4. このデータ ソースをナレッジ ベースに追加するには、[データ ソースの追加] を選択します。

結果

データソースがコネクタに統合されます。

データソースをコネクタと同期する

データソースは関連付けられているコネクタと1日に1回自動的に同期されるため、データソースの変更がAmazon Q Businessに反映されます。いずれかのデータソースに変更を加え、データをすぐに同期 (スキャン) する場合は、オンデマンド同期を実行できます。

同期は増分処理であるため、Amazon Q Businessは前回の同期以降に追加、変更、または削除されたデータソース内のオブジェクトのみを処理します。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。"コンソールエクスペリエンス"。
2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。
3. 「ナレッジベースとコネクタ」メニューから、同期するコネクタを選択します。
4. を選択し...、*コネクターの管理*を選択します。
5. メニューを選択し、[今すぐスキャン]*を選択します。

データソースがスキャンされていることを示すメッセージが表示され、スキャンが完了すると最終的なメッセージが表示されます。

結果

コネクタは接続されているデータソースと同期され、Amazon Q Businessはデータソースからの最新情報を使用し始めます。

スケジュールされた同期を一時停止または再開する

データソースの次の同期（スキャン）を一時停止または再開する場合は、いつでも実行できます。データソースに変更を加え、変更ウィンドウ中に同期を行わないようにする場合は、次のスケジュールされた同期を一時停止しなければならないことがあります。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。"コンソールエクスペリエンス"。
2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。
3. [Connector]インベントリページで、スキャンを一時停止または再開するコネクタを選択します。
4. を選択し...、*コネクターの管理*を選択します。
5. [Actions]メニューを選択し、[Scan]>[Pause scheduled scan]*または[Scan]>[Resume scheduled scan]*を選択します。

次のスケジュールされたスキャンが一時停止または再開されたことを示すメッセージが表示されます。

コネクタの削除

コネクタが不要になった場合は削除できます。コネクタを削除すると、そのコネクタは Workload Factory から削除され、そのコネクタを含むボリュームも削除されます。コネクタを削除すると元に戻すことはできません。

コネクタを削除する場合は、コネクタに関連付けられているすべてのエージェントからコネクタの関連付けを解除して、コネクタに関連付けられているすべてのリソースを完全に削除する必要があります。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。"コンソールエクスペリエンス"。
2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。
3. [ナレッジベースとコネクタ]インベントリページで、削除するコネクタを選択します。
4. を選択し...、*コネクターの管理*を選択します。

5. [アクション (Actions)]メニューを選択し、[コネクタの削除 (Delete Connector)]を選択します。
6. [コネクタの削除 (Delete Connector)]ダイアログで、削除することを確認し、*[削除 (Delete)]*を選択します。

結果

コネクタはワークロード ファクトリーから削除され、関連付けられているボリュームも削除されます。

生成AIデータソースを管理します。

FSx for ONTAPファイルシステムでデータソースを使用してナレッジベースまたはコネクタを作成したら、データソースの詳細の表示、データソースの内容の更新または変更、データソースの設定の編集、データソースの削除を行うことができます。


データソースに関する情報を表示する

データソースのコンテンツに関する情報を表示したり、ナレッジベースまたはコネクタを使用してデータソースの埋め込みステータスを表示したりできます。データソースはナレッジベースまたはコネクタに関連付けられているため、データソースの詳細を表示するには、まずナレッジベースまたはコネクタを選択する必要があります。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。"コンソールエクスペリエンス"。
2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。
3. データソースが存在するナレッジベースまたはコネクタを選択し、...、[ナレッジベースの管理]*または[コネクタの管理]*を選択します。

ページの下部には、関連するデータソースが表示されます。

4. を選択して各行を展開し、 FSx for ONTAPファイルシステム、ボリューム、データソースが配置されているパスなど、各データソースに関する詳細情報を表示します。

また、埋め込み情報と、そのデータソースが現在ナレッジベースまたはコネクタに埋め込まれているのかも表示されます。



データソース設定の編集

ナレッジベースまたはコネクタと統合したデータソースに関する情報を編集できます。ほとんどの情報は、データソースを追加した後で修正されますが、一部の構成（チャンキング定義やパーミッションアウェアネスなど）に変更を加えることができます。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。"コンソールエクスペリエンス"。
2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。
3. ナレッジベースインベントリページで、データソースが存在するナレッジベースを選択し、... *[ナレッジベースの管理]*を選択します。

ページの下部には、このナレッジベースの一部であるデータソースが一覧表示されます。

4. 編集するデータソースの行で、を選択し  で*[データソースの編集]*を選択します。
5. [Edit data source]ページで、を選択し  でチャンク定義の行を展開します。
6. チャンキング戦略と構成、および権限の認識（SMBボリュームの場合）の設定を更新し、*[保存]*を選択します。

結果

データソースの設定が更新され、AIシステムがデータソースを同期して、ナレッジベースにインデックスが再作成されます。

既存のデータソースの内容を更新する


データソースの内容はいつでも変更して、組織のデータを追加または更新できます。このデータソースがナレッジベースでアクティブに使用されている場合は、ナレッジベースに再インデックスされるようにデータソースを同期する必要があります。同期は差分で行われるため、Amazon Bedrockは前回の同期後に追加、変更、または削除されたFSx for ONTAPボリューム内のオブジェクトのみを処理します。

データソースは1日に1回自動的にナレッジベースと同期されるため、データソースの変更がチャットボットに反映されます。データソースに変更を加え、データをすぐに同期したい場合は、を使用できます ["オンデマンドで同期を実行する"](#)。


データソースを削除する

データソースをナレッジベースに含める必要がなくなった場合は、そのデータソースを削除できます。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。 ["コンソールエクスペリエンス"](#)。
2. [AI Workloads]タイルで、*[Deploy & manage]*を選択します。
3. ナレッジベースのインベントリページで、データソースが存在するナレッジベースを選択し、  *[ナレッジベースの管理]*を選択します。

ページの下部には、このナレッジベースの一部であるデータソースが一覧表示されます。

4. 削除するデータソースの行で、を選択し  で*[データソースの削除]*を選択します。
5. [データソースの削除]ダイアログで、削除することを確認し、*[確認]*を選択します。

結果

データソースがナレッジベースから削除され、このデータソースに関するインデックス化された情報がAIシステムによってナレッジベースから削除されます。そのデータソースからの情報は、ナレッジベースを使用しているチャットボットでは利用できなくなります。

NetApp Workload FactoryのTrackerでワークロード操作を監視する

NetApp Workload Factory の Tracker を使用して、ワークロード操作の実行を監視および追跡し、タスクの進行状況を監視します。

タスクの内容

NetApp Workload Factory には監視機能の Tracker が用意されており、ワークロード操作の進行状況とステータスを監視および追跡したり、操作タスクとサブタスクの詳細を確認したり、問題や障害を診断したりできます。

Trackerでは、いくつかのアクションを使用できます。期間（過去24時間、7日、14日、または30日）、ワークロード、ステータス、およびユーザでジョブをフィルタリングしたり、検索機能を使用してジョブを検索したり、ジョブテーブルをCSVファイルとしてダウンロードしたりできます。Trackerはいつでも更新でき、失敗した処理をすばやく再試行したり、失敗した処理のパラメータを編集して処理を再試行したりできます。

トラッカーは、操作に応じて2つのレベルの監視をサポートします。ファイルシステムの導入などの各タスクには、タスクの説明、ステータス、開始時間、タスク期間、ユーザー、地域、プロキシリソース、タスクID、および関連するすべてのサブタスクが表示されます。API応答を表示して、処理中に発生した問題を把握することができます。

Trackerタスクレベルと例

- レベル1（タスク）：ファイルシステムの展開を追跡します。
- レベル2（サブタスク）：ファイルシステムの展開に関連するサブタスクを追跡します。

処理のステータス

Trackerの動作ステータスは、進行中、成功、_失敗_です。

動作周波数

処理の頻度は、ジョブタイプとジョブスケジュールに基づいて決まります。

イベントホシ

イベントはユーザインターフェイスに30日間保持されます。

運用の追跡と監視

Tracker を使用して、Workload Factory コンソールで操作を追跡および監視します。

手順

1. いずれかを使用してログインし["コンソールエクスペリエンス"](#)ます。
2. ワークロード メニューから、[管理](#) を選択し、次に [トラッカー](#) を選択します。
3. Tracker では、フィルターまたは検索を使用してジョブの結果を絞り込みます。求人レポートをダウンロードすることもできます。

View APIヨウキユウ

TrackerのタスクのコードボックスでAPIリクエストを表示します。

手順

1. [トラッカー](#)でタスクを選択します。
2. [アクション](#) メニューを選択し、[*API リクエストの表示*](#)を選択します。

失敗した処理を再試行する

Trackerで失敗した操作を再試行します。失敗した処理のエラーメッセージをコピーすることもできます。



失敗した処理は10回まで再試行できます。

手順

1. トラックで、失敗した操作を選択します。
2. アクション メニューを選択し、[再試行] を選択します。

結果

処理が再開されます。

失敗した処理を編集して再試行してください

失敗した操作のパラメータを編集し、Trackerの外部で操作を再試行してください。

手順

1. トラックで、失敗した操作を選択します。
2. アクション メニューを選択し、*編集して再試行*を選択します。

処理ページにリダイレクトされ、パラメータを編集して処理を再試行できます。

結果

処理が再開されます。[Tracker]に移動して処理のステータスを確認します。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。